

1. 事業報告

(1) 概況

平成27年度は、当法人が社会福祉法人として、指定障害福祉サービス事業所を運営した5年目の年度になり、無事に終えることが出来ました。

基本事業としては、生活介護事業と就労継続支援B型事業とを併せて、障害者総合支援法に基づく多機能型事業所「ワークジョイまつどセンター」として、利用者のニーズに合わせた支援の充実を図り、2事業1事業所の運営・利用者支援を行ってきました。

事業の基本方針としては、当事業所の利用者に対して働く機会の提供を行うとともに、創作活動の場の提供及び相談・助言等の支援の充実を図ることにより、その方々の自立と社会参加及び福祉の増進に寄与する事業展開を念頭に置き、推進してまいりました。

平成27年度は、事業計画の中で課題として掲げた、事業所運営をより円滑に行うために、生活介護事業にあっては、利用者のニーズに合わせた活動プログラムの工夫・充実等、B型事業にあっては、事業内容の充実・利用者の技術の向上及び支援の継続性等を考慮し、「目標工賃達成指導員」を中心に、工賃向上に向けて支援の充実を図り、安定した事業運営を目指しました。

また、グループホームの運営については、3か所のグループホームをNPO法人より引き継ぎ、平成28年4月1日より当法人での運営を開始しました。さらに、当法人において新規建築によるホームについても平成28年7月1日にオープンする運びとなりました。

① 「ワークジョイまつどセンター」（多機能型事業所）の円滑な運営

(ア) 就労継続支援B型事業（定員60名）について

今年度も新たな企業からの受注事業を開拓し、利用者に対して更に充実した働く機会の場を提供するとともに、工賃アップを図ってまいりました。また、利用者の希望による参加を重視し、且つ適切・合理的に取り組めるように創意工夫を行い、実施してまいりました。

具体的には、パン製造・販売「ジョイベーカリーなごみ」の運営、受注事業として、従前の箱折り・アロマケースの組立・チラシ折り・コンタクト用品の袋詰め作業等に、新たにカプセル組立作業等の受注を行い、また、松戸市から請け負っている除草作業等の外作業、さらに、従前からの常盤平駅北口第1自転車駐車場管理を他の作業と同様に、当センターの利用者

が従事する作業のひとつとして、担当職員を配置し、定期的な巡回支援等を実施して、支援の充実を図ってきました。

生産事業については、引き続き通年事業として取り組み、花苗栽培では、栽培方法の工夫や品種を増やし季節を通した栽培に取り組んできました。また、縫製品製作・竹紙製作・陶芸品製作事業では、新たな製品の考案・開発等を積極的に進め商品化を図り、製品の供給体制の整備をしてきました。また、販路についても、常設の販売所での商品陳列、平成27年度も引き続き矢切の総合福祉会館1階ロビーを借用しての月2回の作品展示即売会を実施しました。なお、各種イベントにも積極的に参加して、販売活動を通して利用者の社会参加に対する意識の向上及び工賃アップを図りました。

社会参加活動については、個々の利用者の個別支援計画に基づき、一般就労に向けての企業（会社）見学、就職に対する意識を高める就労関連の社会資源見学、余暇活動を拡大する社会見学等の実施とセンター内の料理教室等をおこない、社会的自立を促進するように就労継続支援B型事業所としての取り組みを実施しました。

また、利用者の状況に合わせて、就労の知識・技能を高め、定期的にハローワーク、求人誌等での求人情報の収集に努め、面接会への同行等、一般就労への支援を行いました。また、昨年度までに就職した方についての定着支援も実施してきました。

なお、本年度も就労については、利用者の希望を一人も叶えられなかった点は、大きな反省点となり、平成28年度の重要な課題となりました。

(イ) 生活介護事業（定員20名）について

生産活動及び創作活動の場の提供を主にしながら、利用者が自立した日常生活又は社会生活を営むことができるように、週間プログラムを基に支援の充実を図ってきました。

生産活動については、割り箸袋入れ、アロマケースの組み立て等、簡易的な作業と、地域新聞の折り・ポストイニング作業を行い、B型事業の利用者と共に花苗栽培や松戸市から請け負っている除草作業等の外作業、また、江戸川河川敷にて、ドライブ・散歩等の一環として行き、同時に、河川敷のゴミ処理を行い、工賃につなげました。

創作活動では、アイロンビーズ、刺し子布巾、アクリルスポンジ等の手芸、室内装飾品などの製作により活動の充実を図り、レクレーション等の

余暇的活動、調理・掃除・字や計算の練習等の生活支援活動等の実施や、季節の行事を取り入れ、日常生活の拡大及び生活の充実を図りました。また、利用者の状況に合わせ、ヨガ・ウォーキング等の健康維持活動をとおして、身体機能等の維持・向上のための支援などの充実を図りました。

② ご家族との連携

利用者がより好ましい社会的自立生活を実現していくために、そのご家族との連携を図り、本人の障がいの客観的な認知・受容を理解してもらうとともに、本法人の「家族・職員の会エール」を軸に、ご家族との連携を密にして、可能な範囲での作業や活動支援への協力により、個々の利用者の福祉の向上・促進を図ってまいりました。

③ 地域住民との交流及び施設のオープン化

ボランティアの積極的な受け入れについては、利用者の状況や障がい及び施設の役割等に対する理解を深めるために、縫製・陶芸品製作・音楽鑑賞会・読み聞かせ等で専門的知識を持って定期的に活動に参加して下さる方、また、利用者と共に作業を行うボランティアの方と保護者の方等、多くの方々に協力していただきました。

実習生の受け入れについては、市内の短大・専門学校生等、積極的に受け入れました。

地域との交流については、利用者の円滑な地域生活(共生社会)の実現のために、花苗の巡回販売、近隣地域の方々参加型の「ジョイふれあいまつり」の開催、町会への参加、町会への施設の提供等、積極的に行いました。

—以上の実施状況の詳細については、後述「2. 事業実施状況」のとおりです。—